

# Asia Indicators

発表日: 2025年5月2日(金)

## 韓国・4月輸出は予想外の底堅い動きを確認(Asia Weekly(4/28~5/2))

～米国向けは下振れも、中国向けの底堅さや EU 向けの大幅な上振れが影響を相殺～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/30(水)	(韓国)3月鉱工業生産(前年比)	+5.3%	+3.7%	+7.1%
	(オーストラリア)3月消費者物価(前年比)	+2.4%	+2.2%	+2.4%
	(中国)4月製造業 PMI	49.0	49.8	50.5
	4月非製造業 PMI	50.4	--	50.8
	4月財新製造業 PMI	50.4	--	51.2
	(タイ)金融政策委員会(政策金利)	1.75%	1.75%	2.00%
	(台湾)1-3月実質 GDP(前年比・速報値)	+5.37%	+3.40%	+2.90%
5/1(木)	(韓国)4月輸出(前年比)	+3.7%	▲2.7%	+3.0%
	4月輸入(前年比)	▲2.7%	▲7.0%	+2.3%
	(オーストラリア)3月輸出(前月比・季調済)	+7.6%	--	▲4.2%
	3月輸入(前月比・季調済)	▲2.2%	--	+1.8%
5/2(金)	(韓国)4月消費者物価(前年比)	+2.1%	+2.0%	+2.1%
	(オーストラリア)3月小売売上高(前月比・季調済)	+0.3%	+0.4%	+0.2%
	(インドネシア)4月消費者物価(前年比)	+1.95%	+1.60%	+1.03%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [韓国]～トランプ関税の影響が懸念されるも、中国向けや EU 向けの堅調さが4月の輸出を下支えする動き～

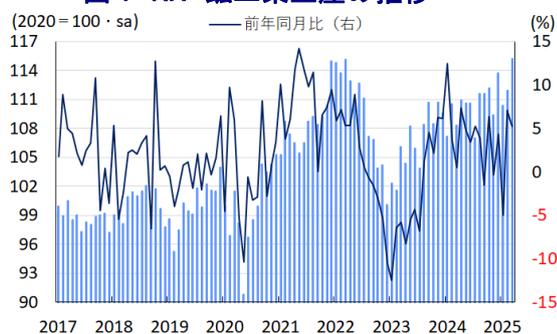
30日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+5.3%となり、前月(同+7.1%)から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+2.9%と前月(同+1.4%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。分野別では、調整の動きが続いてきた鉱業部門の生産に底打ち感が出ているほか、製造業において生産拡大の動きが広がりを見せ、トランプ関税の発動を前にした駆け込みの動きが生産を押し上げている様子がうかがえる。製造業のなかでは、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産が大きく底入れするとともに、電気機械関連のほか、船舶をはじめとする輸送用機械関連の生産が拡大していることに加え、金属関連や化学製品関連など素材・部材のほか、縫製品など幅広い分野で生産拡大の動きが確認されている。

1日に発表された4月の輸出額は前年同月比+3.7%となり、前月(同+3.0%)から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月連続で拡大しており、トランプ関税の発動による悪影響を反映して米国向けは下振れするも、中国向けが拡大するとともに、EU向けは大きく

底入れして過去最高を更新するなど輸出全体を下支えしている。財別では、引き続き主力の輸出財である半導体が好調な動きをみせるとともに、電気機械関連やバイオ・医薬品関連も堅調な動きをみせるほか、弱含む動きをみせてきた鉄鋼製品の輸出に底打ち感が出ている。自動車関連の輸出は下振れするも、自動車部品関連の輸出は引き続き底堅い動きをみせている。一方の輸入額は前年同月比▲2.7%となり、前月（同+2.3%）から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。さらに、前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせるも、中期的な基調は減少傾向で推移するなど底堅い動きが続く輸出と対象的な状況にある。輸出の先行きに対する不透明感が高まるなかで原材料に対する需要に下押し圧力が掛かるとともに、商品市況の低迷や内需が弱含んでいることも輸入の重石になっているとみられる。結果、貿易収支は+48.84億ドルと前月（+49.22億ドル）から黒字幅が縮小している。

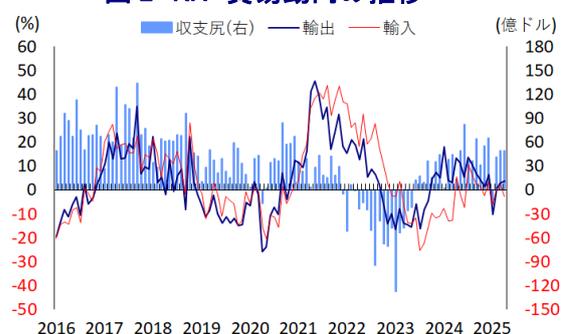
2日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+2.1%となり、前月（同+2.1%）から2ヶ月連続の横這いで推移するとともに、中銀目標（2%）をわずかに上回る伸びとなっている。ただし、前月比は+0.08%と前月（同+0.18%）から上昇ペースは鈍化しており、エネルギー価格が落ち着いた推移をみせているほか、生鮮品を中心とする食料品価格も下落するなど、生活必需品の物価上昇圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.1%となり、前月（同+1.9%）から加速しており、8ヶ月ぶりに中銀目標を上回る伸びとなっている。前月比も+0.36%と前月（同+0.20%）から上昇ペースも加速しており、エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かる一方、国際金融市場における通貨ウォン安を受けた輸入物価の押し上げを反映して幅広く財価格が上昇しており、サービス物価にも上昇圧力が掛かる動きがみられる。

図1 KR 鉱工業生産の推移



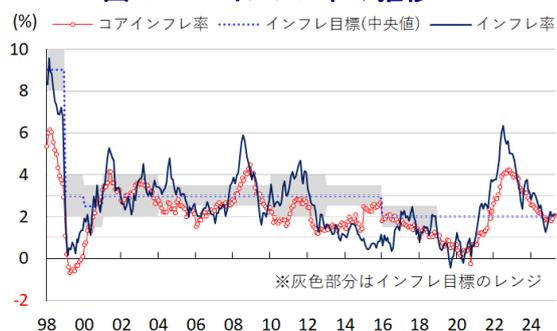
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 KR 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図3 KR インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

## [オーストラリア]～小売売上高は緩やかな底入れが続くも、家計部門のマインド悪化が足かせとなる兆しも～

1日に発表された3月の輸出額（季調済）は前月比+7.6%となり、前月（同▲4.2%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせるも、中期的な基調は拡大傾向に転じるなど底入れの動きが確認されている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けが拡大しているほか、トランプ関税の発動を前にした駆け込みの動きを反映して米国向けは拡大している上、日本向けやASEAN向け、インド向け、EU向けなど幅広い地域向けに底堅い動きがみられる。財別でも、主力の輸出財である農産品のほか、鉱物資源関連、化学製品関連や工業製品関連など幅広い分野で輸出が底入れする動きが確認されている。一方の輸入額は前月比▲2.2%となり、前月（同+1.8%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるも、中期的な基調は減少傾向に転じるなど輸出と対照的な動きをみせている。財別では、鉱物資源関連や化学製品関連に底堅い動きがみられるものの、工業製品関連や食料品関連など幅広い分野で輸入が下振れしており、輸出の先行き不透明感や内需の弱さが輸入の重石となっている。結果、貿易収支は+108.59億豪ドルと前月（+23.67億豪ドル）から黒字幅が拡大している。

2日に発表された3月の小売売上高（季調済）は前月比+0.3%となり、前月（同+0.2%）から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。クイーンズランド州に上陸したサイクロン（アルフレッド）の影響が小売業界に深刻な悪影響を与える動きがみられたものの、食料品や日用品関連を中心とする需要の堅調さが小売全体を下支えしている。一方、高額品に対する需要が下振れするとともに、外食関連の需要にも下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、不要不急の消費が手控ええられる様子がうかがえるなど、家計部門の消費マインド悪化の影響が少しずつ顕在化している可能性がある。

図4 AU 貿易動向の推移

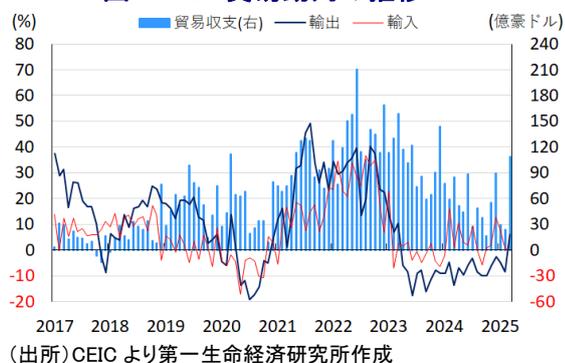


図5 AU 小売売上高の推移



## [インドネシア]～電力料金の割引措置終了の余波でインフレ加速、サービス物価を中心に上昇圧力がくすぶる～

2日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+1.95%となり、前月（同+1.03%）から加速して8ヶ月ぶりの伸びとなるとともに、4ヶ月ぶりに中銀の定めるインフレ目標に収束している。プラボウォ政権が1～2月の時限措置として実施した電力料金の割引措置が終了した反動も重なり、足元のインフレは加速している。前月比は+1.17%と前月（同+1.65%）からペースは鈍化するも上昇が続いており、食料品の物価は落ち着いた推移をみせる一方、エネルギー価格は大幅な上昇が続くなど、電力料金の割引措置終了の影響がうかがえる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.50%となり、前月（同+2.48%）からわずかに伸びが加速している。前月比も+0.31%と前月（同

+0.24%) からわずかに上昇ペースが加速しており、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせているものの、サービス物価の上昇の動きが全般的なインフレ圧力を招いている様子がうかがえる。

図 6 ID インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。